

まきどき・植えどき・収穫どき

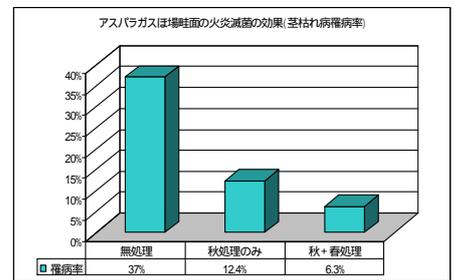
どきどき情報 11月

野菜の作業 冬～春期にかけての品目確保と来年の生産にむけての準備をしましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ハウレンソウ ・二十日ダイコン ・コマツナ ・シュンギク <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タマネギ ・イチゴ <p>など</p>	<p>アスパラガスの病害発生軽減と茎葉処理</p> <p>アスパラガスの「立枯れ症状」と診断しているほ場が、実は茎枯れ病がひどくて芽が出ないといった現象が目立っています。そうならないために防除の徹底、ほ場内の通気性の改善、簡易雨よけの実施、さらには畝間への敷きわらによる雨の跳ね返り防止などの予防的な方法があります。しかし、茎枯れ病が多発してしまったほ場では、秋の茎の抜き取り、残茎除去が重要なポイントとなりますが、「火炎滅菌処理」の効果が期待できますので紹介します。（希望等の詳しい相談は、JAにご連絡ください）</p>
	<p>収穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハクサイ ・ネギ ・ダイコン ・チンゲンサイ ・野沢菜 ・長芋 <p>など</p>	



「火炎滅菌処理機」マンモスバーナー



JA中野市 2008

ハウレンソウ栽培 「プロの経営・栽培技術」

～ 諏訪郡原村 小林金茂さんの事例から～ [ながの農業と生活11月号から抜粋]

小林さんは、標高1,100m地帯で雨よけハウレンソウの専作経営を行っている方です。

経営規模は、雨よけハウス1.5ha（間口6.3mハウス）で、そこに年5回の作付けを行っているそうです。

は種は、条間は20cmで2条式真空は種機を使い、11月上旬から翌年10月上旬まで順次行い、収穫は、は種後、夏は23日、冬は60日を目安に行っています。

11月上旬蒔きの作型ではハウス内を二重被覆とし、冬は凍結防止のためかん水設備が使えないとのことで、自宅近くのハウスで栽培しタンクで自宅から水を運びかん水しているとのことです。

主な品種はニューブリッジ、サマースカイR7、プロキオン、オハイオ、パラディアの5品種で選定のポイントは収量性はもちろんのこと、半立性でボリューム感があり、袋詰めした時の見栄えがよいこととのことです。灰汁が少なく甘く、均一な生育のハウレンソウを作るため試行錯誤を繰り返し、現在は、植物性の有機質肥料主体の肥料設計を行っており、信州諏訪農協野菜品評会において3年連続部門1位の成績をおさめているとのことです。

栽培のポイントは一斉発芽させることで、目標はは種5日後に発芽が揃うことで、そのために発芽まではたっぷりとかん水を行うとのことです。かん水が多いと病害が発生しがちとなるが、クロルピクリンによる土壌消毒でほとんど発生しないとのこと、また、近年早春、晩秋にハウレンソウケナガコダニの被害が目立つようになっているが、安全安心農産物生産の観点から農薬削減のため、現在は高カロリーのガスバーナーでの「土壌表面焼き」で、被害軽減を図っているとのことです。さらに、出荷時の鮮度保持にも気を配りFG袋を使い、運搬には軽トラック仕様の冷凍車（5 設定）を利用しているとのことです。

なお、丸子地域では標高500～700mであることから、同じ作型では困難な面もありますが、標高によっては、夏場での「寒冷紗」利用などにより栽培が可能と考えられますので、計画的安定出荷、品質向上に向け参考にさせていただきたいと思えます。



農業豆知識

栽培の作業日誌・防除記録の書き方と活用（その1）

栽培や作業の日誌は、次年度の生産計画を考えるうえで重要で、本年度の反省を踏まえ栽培管理の適期を把握する場合や気象条件や品種特性と照らし合わせどこまで出荷期間を広げることが可能かなどを考える場合に大変参考となります。また、防除記録は、販売するためには当然必要であり「記録しないと出荷できないので」と思って、記録している方もいるかもしれませんが、気象変化や病害虫の発生状況・防除効果等を併せて記録することにより、次年度の防除等が計画的・効果的に行うことが可能となるなどメリットは、作業日誌と合わせることでたくさんあると思います。

そこで、より記帳しやすく活用できるよう工夫し、実践している事例を紹介しますので、参考に自分なりに工夫し、活用をしていただきたいと思います。

なお、新年度も現在使用している品目毎の「栽培管理日誌」を利用するほか、JA全農長野東信支所とJAで作成した「生産防除日誌」が全組合員へ配布される予定ですので、自分に合った記帳方式を考え、データを蓄積しながら活用するのをもひとつの大きな楽しみになるのではないのでしょうか。

（事例1）「Iさん」の事例（記録様式は一部修正、記録内容は一部省略・一部加筆）

平成21年 栽培管理記録 1 生産者 電話 -xxxx

呼び名(区分)：和畑 ブロッコリー	作物	作型
ほ 場：和畑 25a	ブロッコリー	9月～11月出荷

分類項目：は種、接木、移植、定植、中耕、元肥、追肥、農薬散布、刈処理、初収穫、収穫終了など

日付	分類項目	作業内容等	使用農薬、使用量等
6/18	は種	ピクセル(72×2枚、128×18枚)	
6/25	は種	ピクセル(72×2枚、128×18枚)	
7/1	は種	ピクセル(128×18枚)	
7/13	元肥	分(MMB40：100kg、 粒状苦土石灰：80kg)	
7/14	定植	：畝間70cm、通路幅85cm	オンコル粒剤(定植前箱散)
7/25 ~26	定植	： 同上	同上
8/1	定植	： 同上	同上
8/5	農薬散布	*コナガ多い	コツロアール2,000倍 +トイホルト-500倍：250ℓ
8/17	農薬散布	* 農薬効いている	ファーム乳剤2,000倍：150ℓ
8/24	農薬散布		コツロアール2,000倍 +トロ-水和剤CT1,000倍：300ℓ
8/29	農薬散布		ズビ°水和剤2,000倍 +トイホルト-500倍：300ℓ
9/5	初収穫	*干ばつにより収穫が遅れた	
9/8	農薬散布		イマルDF1,000倍 +ファーム乳剤2,000倍：500ℓ
9/18	初収穫		
9/18	収穫終了		
9/28	初収穫	*収穫遅れ玉大きすぎ！	

* この事例は、は種 では種した苗が、定植 で定植され、初収穫 で収穫されたという「は種単位」で作業及び記録しています。特徴（ポイント）としては、作業日誌と防除記録が1枚に記入でき、日を追って作業の流れがわかるようになっています。また、生育状況や天候、問題となった（失敗した）事項なども記録しておくこと次の年に改善するのに活かすことが可能となります。

あさつゆ連絡先 電話：FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
地域係 中澤普及員（25-7156）